

サツキPROJECT

～西日本豪雨で被災したアパートを
地域の防災拠点住宅に再生する～

岡山県 チームサツキ 代表 津田 由起子



1 サツキPROJECTの始まり (つながる つどう)

2018年7月西日本豪雨で被災した真備町では、51名の方が犠牲になり、そのうち8割超の方が1階で亡くなっておられます。

そんな中、私たちは11月から「住まいについての勉強会」を各分野の専門家の方々のご協力のもと行いました。参加者からは、リフォームに関する質問や資金についての悩みが出されましたが、「人と人とのつながりのある暖かい真備が好き」という声が多く出されました。

そして、「いのちと財産を守るために、1階は店舗や集会所にし、いざとなったら上の階や屋上に避難できる3階建て以上の建物が水没危険地域に点在すれば、真備町は日本一安全で安心な町になれるのではないか」と夢を語りました。「車いすの人が避難できる様に屋上までスロープが必要」、「電源は浸水高以上に設置する」など、様々な

アイデアが出されました。そして、「ただ避難機能を備えた住宅があればいいのではなく、近隣の人々と心地よい距離感を保ちつつも互いに助け合い誰もが役割のある暮らしが必要」とそこでの暮らしについても話し合いました。

2 サツキ PROJECT 実現に向けて (いきる)

理想はどんどん膨らみますが、当然金銭的な問題が大きく立ちはだかります。それを乗り越えサツキPROJECTが実現する大きな転機は、被災したアパートを提供してくださる方があったこと、2019年国土交通省スマートウエルネス「人生100年時代を支える住まい住環境整備事業」に採択されたこと、クラウドファンディングに成功したことでした。これらの活動を通して、全国の多くの方々に共感していただいていること、何より真備の方々に後押しいただいていることを心強く感じました。そして、



「ちょっと困った」を
ちょっとづつ支えあう、得意なことで誰かの役に立つ

誰もが気軽に立ち寄って、いつも何かがはじまる。ちょっとした楽しみもちょっと不安も共有できる。

興

51人(直接死)の犠牲を伴った西日本豪雨災害からの復興。
誰もが尊厳をもった生活を取り戻すための「住まい・生活」を再建。

支

いきる
つながる つたえる

つどう ひらく

共

サツキPROJECT

伝

災害の教訓を目に見える形で、住まい方で伝え、次世代へつむいでいく。

「水害に強いまち」のシンボルとして、避難機能付き共同住宅がサツキが花開くように全国に普及していく。

展

サツキ PROJECT について

2020年6月アパートは完成し被災された方々の真備での暮らしの再出発となりました。

リフォームを行ったアパートは2階建てで、構造上3階を増築することはできなかったのですが、2階の1室をコミュニティルームにし、そこまで30メートルの巨大なスロープを作りました。西日本豪雨の時にも2階は浸水しなかった建物です。ですから、大雨が降って心配な時には住民だけでなく近所の方々もコミュニティルームに避難できます。また、アパートの住民の方々はいざという時には地域の人が居住空間に避難してくることも了承の上入居されています。実際に昨年は台風接近に向けて何度か地域の方が避難されました。日頃からなじみのある場所であり、そこに住まいがあるので、わざわざ避難所を開ける手間はいりません。避難場所が普段使いで、住まいに併設されていることの強みを感じました。



スロープを活用したクリスマスイルミネーション

3 サツキ PROJECT 活動 (ひらく)

現在、コミュニティルームでは防災研修を開催し地域に情報を発信しています。数十メートル先の市営住宅にも被災した方々が次々に入居されつつあり、ラジオ体操を一緒に行いミニサロン活動を行っています。香川大学の防災を学ぶ学生さんたちのご協力をいただき、地元のまちづくり協議会との共催で防災に関するイベントを開催し、子どもたちにとっても楽しみながら防災を

知る機会となっています。近隣の方々にアパートについて、さらに知っていただこうと町づくり推進協議会、社会福祉協議会、国土交通省、香川大学の方々にご協力いただき近隣159件に訪問調査を行うことができました。また、アパートの真裏には幼稚園があり子どもたちと住人の交流も始まっています。地域連携型マイタイムラインを使って、地域の方々と一緒に避難要配慮者の避難をともに考える取り組みを行っています。近隣の方々にアパートを認知していただき、誰もが集えるなじみの場になるように、そして支え合う暮らしの実現に向けて取り組みが進んでいます。

4 サツキ PROJECT 今後 (つたえる)

被災から3年を迎えようとしている今、まちづくり防災大賞「消防庁長官賞」に選んでいただいたことは、大きな励みになりました。サツキPROJECTについて全国の方に知っていただきたいと考えています。避難所まで距離があると高齢者や障害のある方々の避難のハードルが高くなります。500メートルなら車いすの方や杖をついている方々も何とか行き着くことができるのではないかと考えます。今後このような建物が水害リスクの高い地区に整備されること、被災地では被災したアパートなどを再活用する仕組みが整っていくことを望みます。



第25回防災まちづくり大賞消防庁長官賞受賞